

**ソーシャルメディア衛星
開発プロジェクト
SOMESATの参加者が持つ
関心・ニーズ・共同体意識
—質問紙調査などから**

渡辺謙仁

(北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院)

日本情報経営学会第62回全国大会

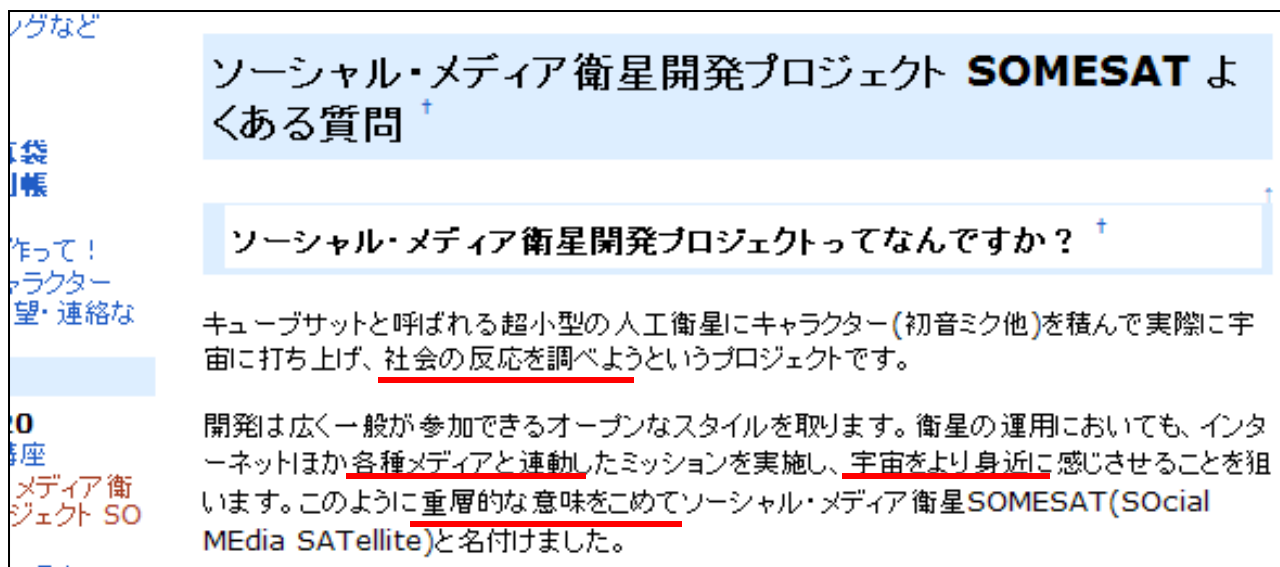
2011年7月2日(土)@神戸大学

目次

1. はじめに
2. 先行研究
3. 目的
4. 方法
5. 結果と考察
6. まとめと今後の課題

ソーシャルメディア上で展開する 興味深い協働学習の例

SOcial MEdia SATellite development project (ソーシャルメディア衛星開発プロジェクト)



ソグなど

袋帳

作って！
キャラクター
望・連絡な

0
座
メディア衛
プロジェクト SO

ソーシャル・メディア衛星開発プロジェクト **SOMESAT** よくある質問 ⁺

ソーシャル・メディア衛星開発プロジェクトってなんですか？ ⁺

キューブサットと呼ばれる超小型の人工衛星にキャラクター(初音ミク他)を積んで実際に宇宙に打ち上げ、社会の反応を調べようというプロジェクトです。

開発は広く一般が参加できるオープンなスタイルを取ります。衛星の運用においても、インターネットほか各種メディアと連動したミッションを実施し、宇宙を上り身近に感じさせることを狙います。このように重層的な意味をこめてソーシャル・メディア衛星SOMESAT(Social Media SATellite)と名付けました。



SOMESAT

ソーシャル・メディア衛星開発プロジェクト
Social Media Satellite Development Project

※2011年7月1日現在

ニコニコ技術部WikiのSOMESATページ

<http://j.nicotech.jp/somesat>

SOMESAT_PVに見る運用イメージ (実際と異なる場合があります)

RSS
U-ダ
【ニコニコニュース】
AKB多田“初キスは結婚相手と”

再生: 315,421
コメント: 10,050
マイリスト: 19,301

コメント

通常コメント

再生時	コメント
01:27	ニコニコw
02:37	ここから長いが
03:05	すげえ
03:44	自分でエーラ
04:04	すげえ
04:10	凄いとしか言
04:44	いったっらしや
04:52	手を振ってる
04:57	がんばれよ
04:59	ノシ
03:34	すげえ
03:45	wwwww
03:28	IBN5100の出

自動でスクロールす

再生: 3:46 / 5:29

メニュー コマンド

コメント

アプリ

ussy(2010)【第5回MMD杯本選】ちょっと宇宙行ってくる！SOMESAT PV. ニコニコ動画

目次

1. はじめに
2. 先行研究
3. 目的
4. 方法
5. 結果と考察
6. まとめと今後の課題

重要性を増す 文脈横断論的な学習論

- * 近年、**社会的文脈間の繋がり**が固定化することなく、ますます**流動化**の一途をたどっている(香川 2008)
- * 文脈横断: 人々が複数の文脈の間を**またいだり**、文脈(共同体)同士がその境界を超えて**結びついたり**する現象(香川 2008)
- * 文脈横断論の学習観: 人々は、文脈横断の過程で、以前の文脈の中で学んだことを現在参加する文脈に適用したり、**文化(習慣や考え方など)**の相違や**葛藤**を経験しながら、新たに学習したりする(香川 2008)
- * 「第三世代活動理論」(例えば山住 2008)や「実践共同体」(例えばWenger et al. 2002)の理論

文脈横断論の方法論

- * 人間科学

- * 特定のローカルな時空間固有の複雑な**社会文化的実践**を、その具体性を崩さぬまま解明(香川 2008)

- * 時に現場の当事者達と協同で現場変革を試みる(香川 2008)

- * フィールドワーク

- * 厳密に定義された既存の概念と理論から出発する代わりに、**問題を大まかに示す**だけの「感受概念」を出発点とする(Flick 2007)

ソーシャルメディアを活用した 文脈横断学習

- * (ソーシャルメディアなどの)情報技術の進歩によって、**実践共同体**が進化する(Wenger et al. 2005)
- * 東郷(2008)は、地域**SNS**を道具として生起した市民の文脈横断学習を、**活動理論**を基に分析している
- * SOMESATは、ソーシャルメディアを活用した**個人・共同体・社会**の文脈横断学習のモデルケース

目次

1. はじめに
2. 先行研究
3. 目的
4. 方法
5. 結果と考察
6. まとめと今後の課題

目的

- * SOMESATにおける、プロジェクトへの参加の度合いを深めていく過程としての学習がどのようなものか調べる
- * 研究者は、ある種の社会実験・研究としてのSOMESATを主に参与観察により研究する(研究の研究)
- * 本講演:これまでの参与観察で、参加の有り様を決定付けると思われた、参加者の関心やニーズ、共同体に対する意識を中心に、SOMESATを大まかに捉える

目次

1. はじめに
2. 先行研究
3. 目的
4. **方法**
5. 結果と考察
6. まとめと今後の課題

質問紙調査

- * 対象：SOMESATのメンバーのうち、オフラインイベントの参加者 N=18
- * 技法：5件法、自由記述法など
- * 項目数：36項目
- * 日付・場所：(震災前)
 - * SOMESAT関西勉強会(2011年2月6日@大阪コロナホテル) N=16
 - * 同人誌即売会「ニコつく」(2011年2月12日@東京流通センター) N=2

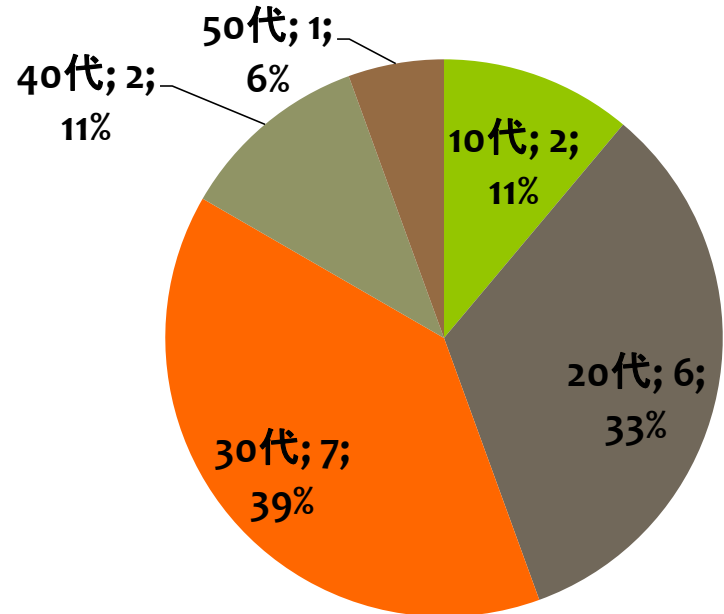
目次

1. はじめに
2. 先行研究
3. 目的
4. 方法
5. **結果と考察**
6. まとめと今後の課題

人口統計的変数(1)

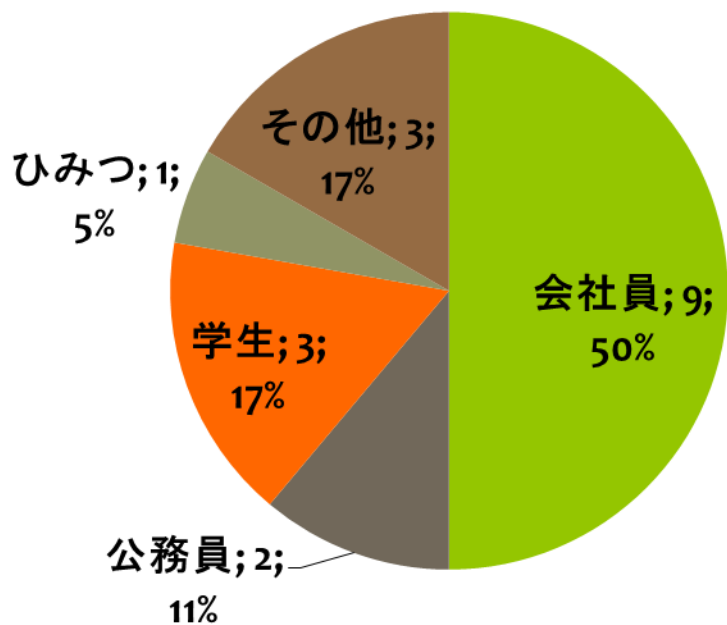
性別: 全員男性 (N=18)

年齢(何歳代かで質問,
N=18, M=27)

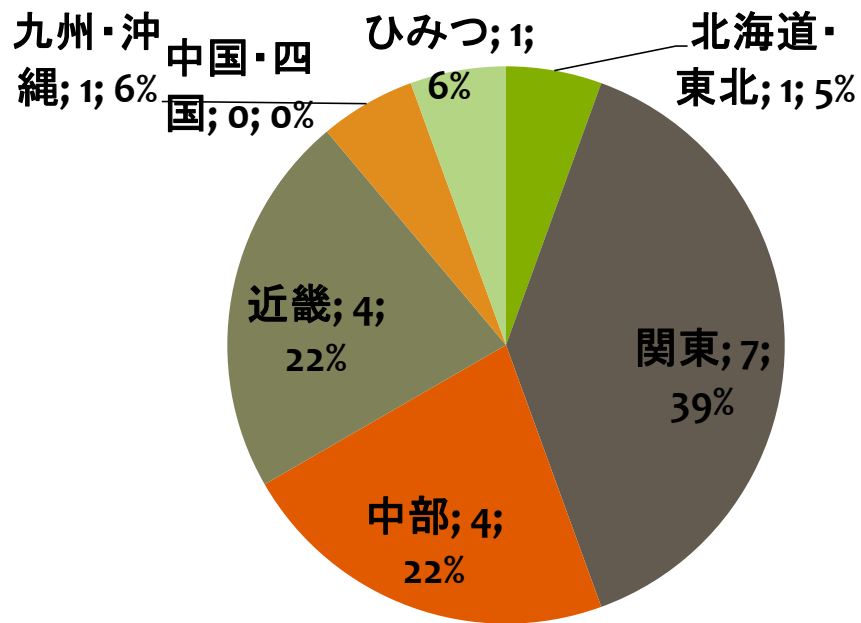


人口統計的変数(2)

職業(自由記述, N=18)

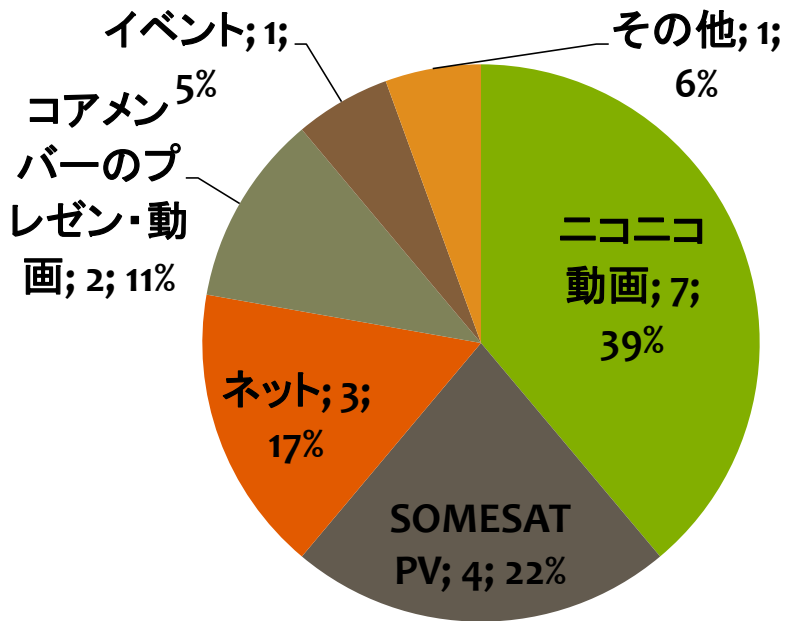


居住地 (都道府県で質問, N=18)

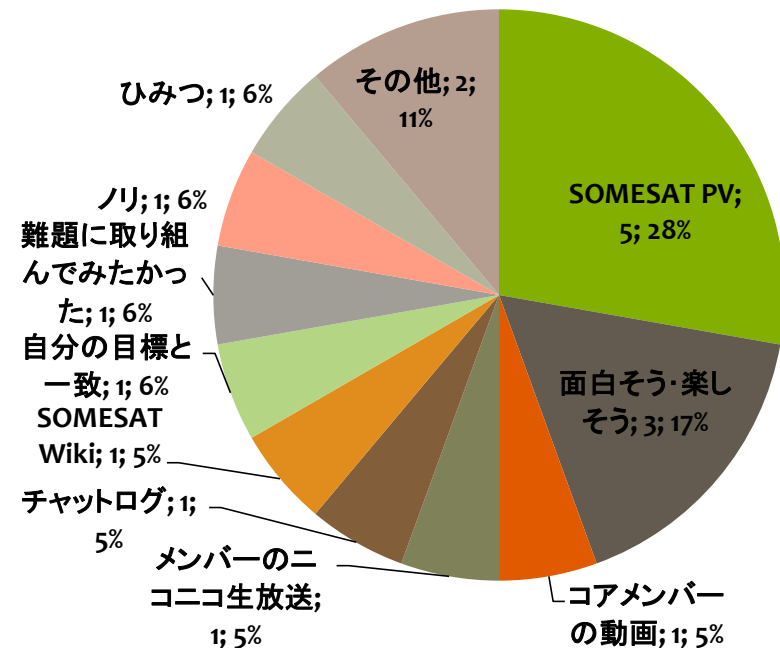


参加の経緯など(1)

どこで(誰から)知ったか
(自由記述, N=18)



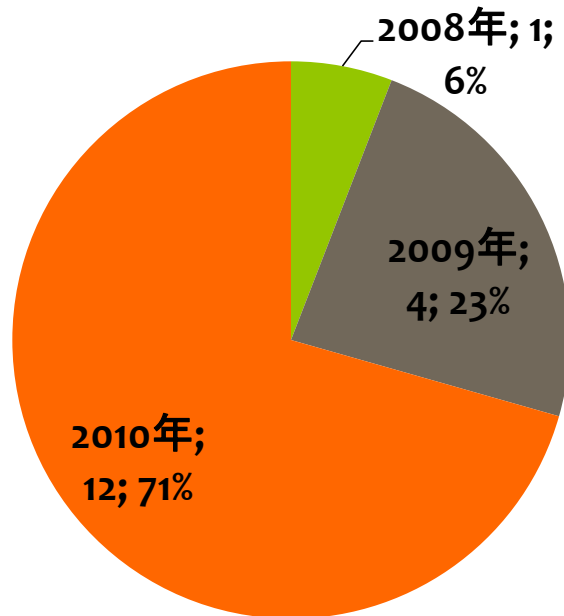
参加を決めたきっかけ
(自由記述, N=18)



参加の経緯など(2)

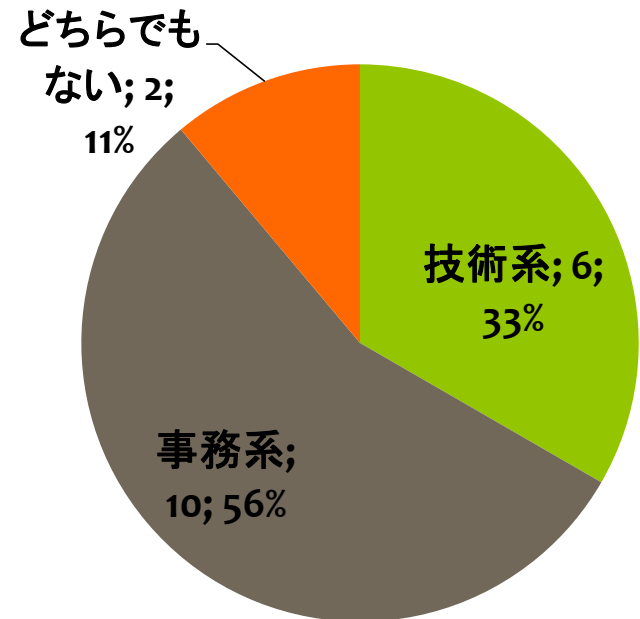
参加時期

(何年何月かで質問, N=17)

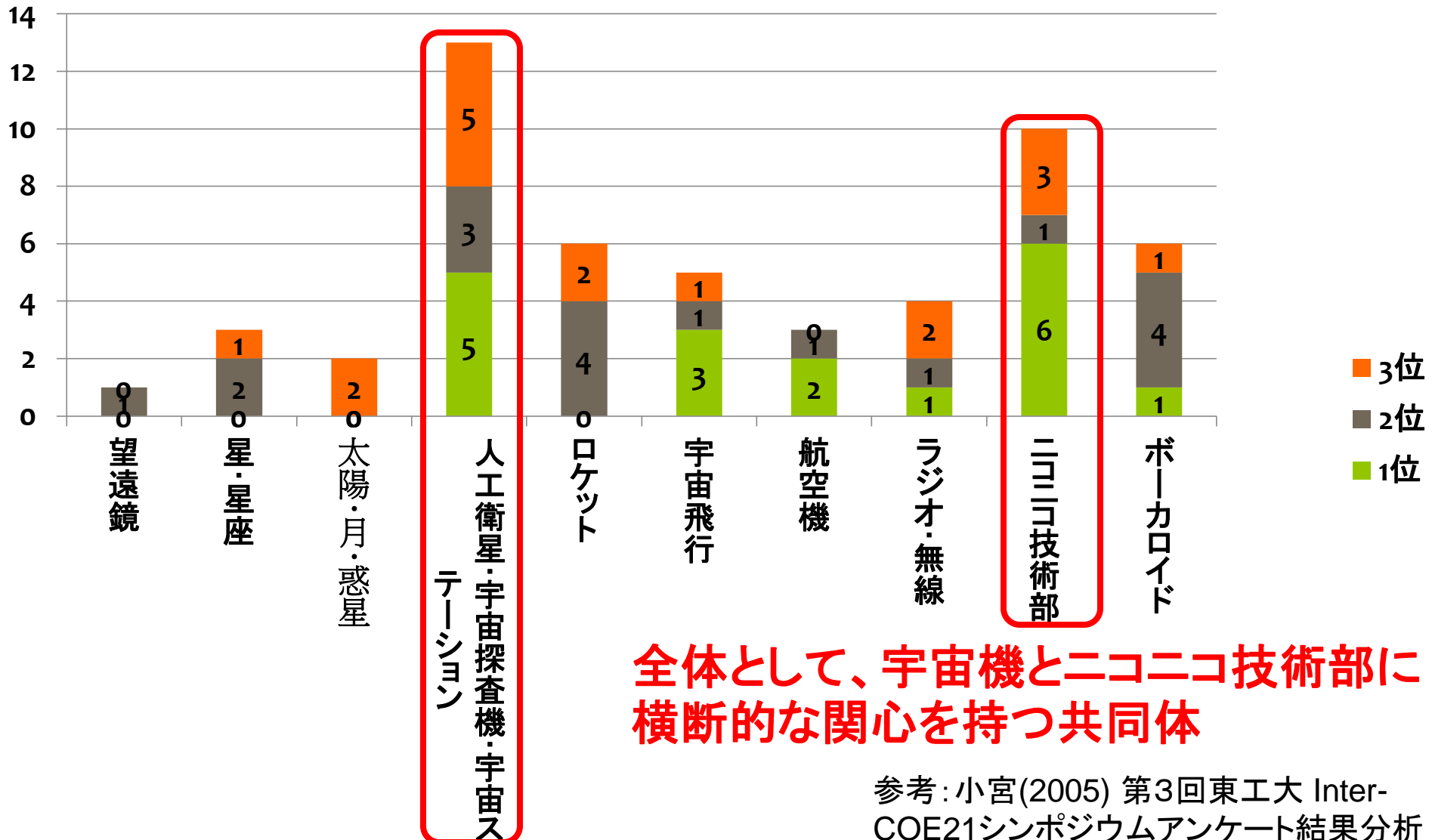


SOMESATの中での系統

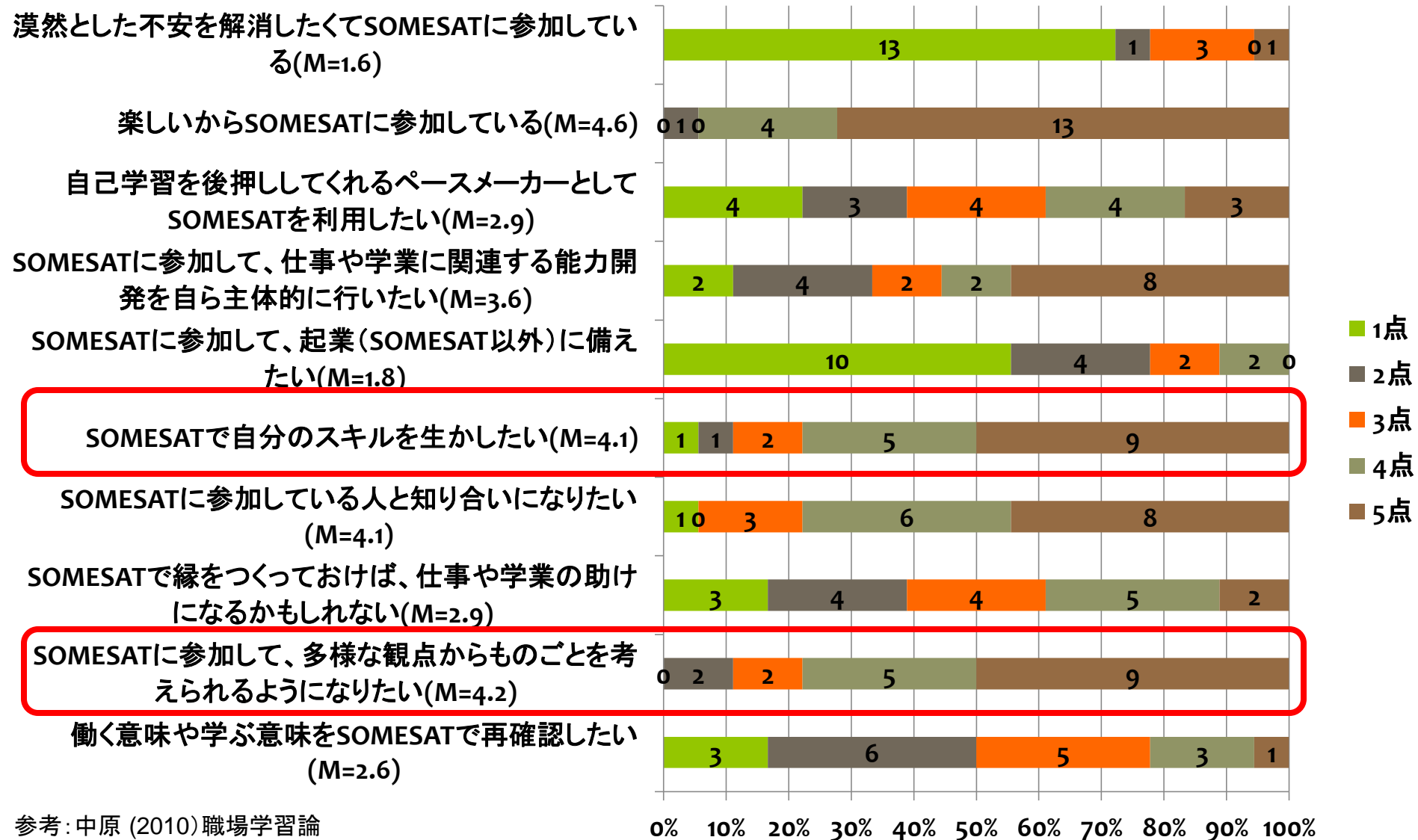
(3択, N=18)



特に興味を持つものの1位から3位 (回答した人数の集計, N=18)

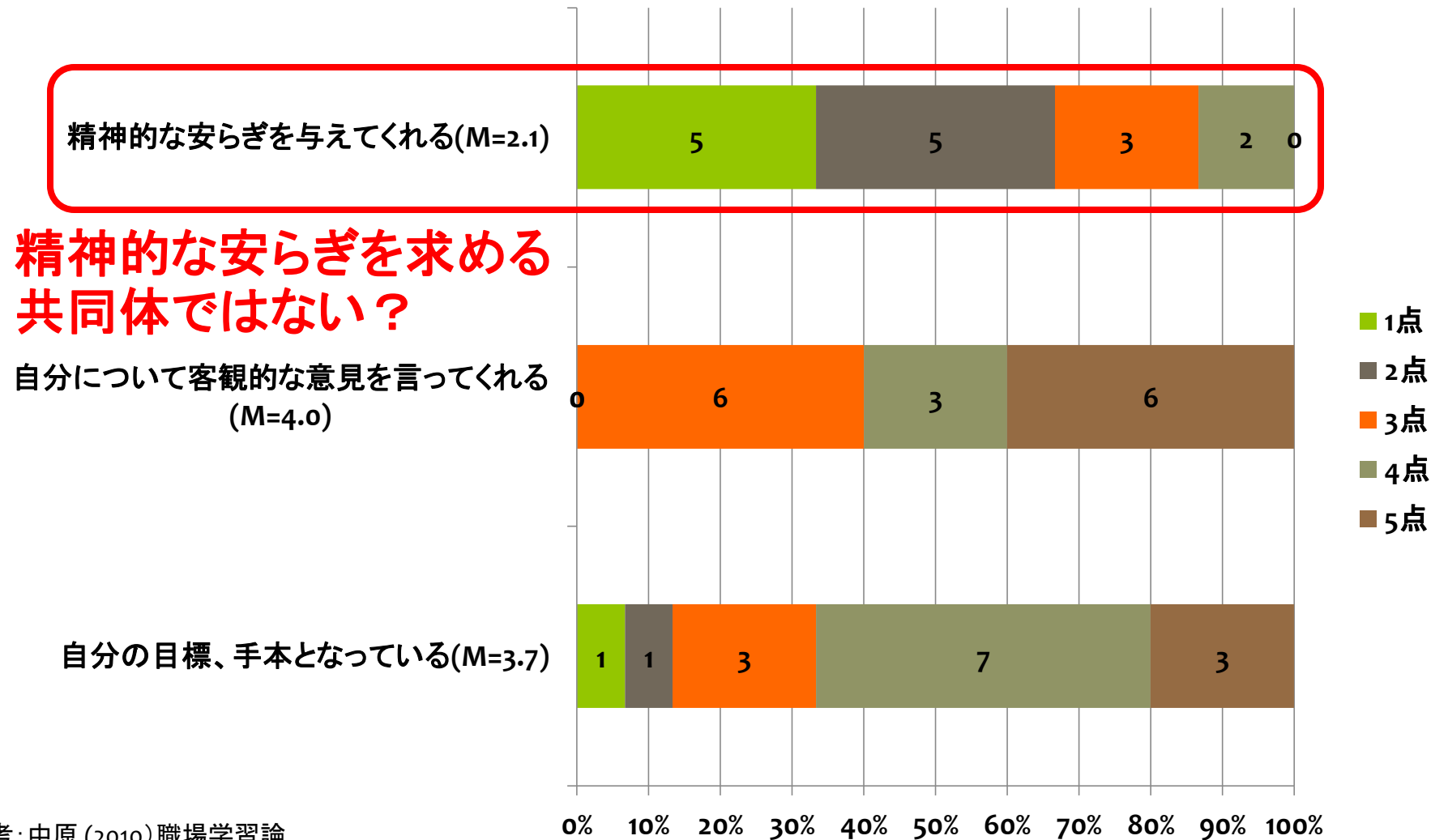


5件法で聞いたニーズ(N=18)

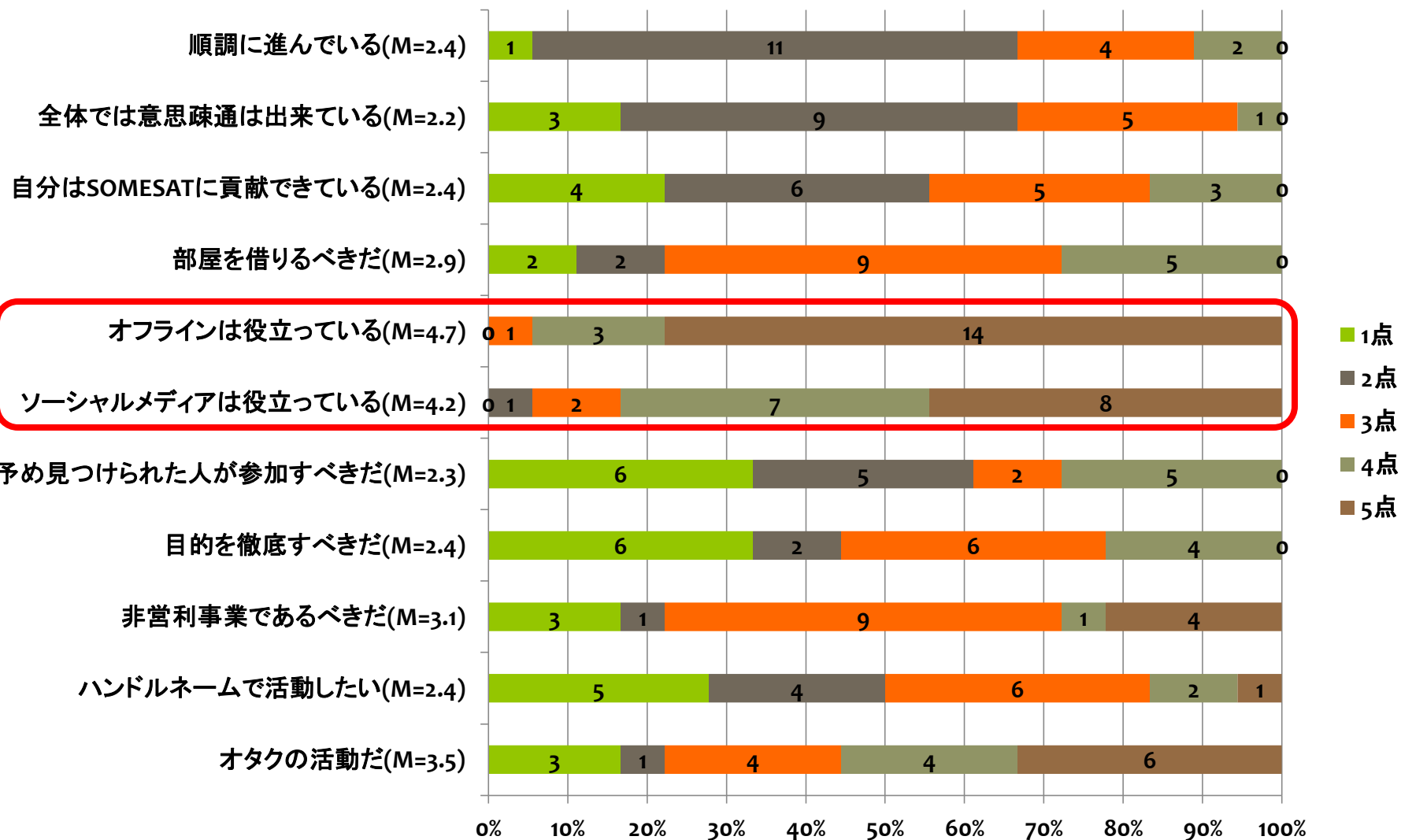


参考: 中原 (2010) 職場学習論

5件法で聞いた他者からの支援 (N=15)



5件法で聞いた 共同体に対する意識(N=18)



自由記述欄

- * 同じような回答
→まとめて人数を記述
- * まとめられなかった回答
→「」内にそのまま記述

Q.あなたが考えるSOMESATの目的とは何ですか？

* A.

- * 宇宙でネギ振り:3人
- * 「アマチュアによる宇宙開発を通じた宇宙開発振興」
- * 「非営利であるが人と協力して一つの難移度の高い事柄にchallengeし、達成感を得る。」
- * 「みな 아이디어を集約し、現実にするところ」
- * 「一部の人間の道楽ではなく、多数の一般の人間の力を結集して目標を達成する、東大寺の大仏的事業」
- * 「真面目に不真面目な事をやる。」
- * 「趣味で高度な技術開発／組織運営を行い『遊ぶ』事」
- * 「宇宙を身近なものにすること」

社会的インパクト・社会的意義に関するニーズ

Q.あなたがSOMESATに十分に貢献することを妨げているものは何ですか？

* A.

- * 自分のスキル・能力の不足・ミスマッチ:5人
- * 作業に入っていない、実績がない:4人
- * 「自身の性格」

Q. ネットベースの活動である利点・欠点は何ですか？

* A. (利点)

- * 様々な境界(時間・空間・年齢・縁・職業・収入など)を越えて人と交われる:13人
- * 「自由意志での参加」
- * 「新規の参加者が入る可能性」
- * 「『未知のエリア』にチャレンジできること」

* A. (欠点)

- * ミスコミュニケーションが起こりやすい:8人
- * 意志決定が遅い:5人
- * 責任が不明確、実体が(まだ)ないことに寄る信頼の無さ:2人
- * 物理的な開発の困難、開発の分散:2人
- * 「全体としてのまとまりが薄いかも」
- * 「メンバー間のオフのすりあわせが困難」

目次

1. はじめに
2. 先行研究
3. 目的
4. 方法
5. 結果と考察
6. **まとめと今後の課題**

まとめ

- * 30代以下の若い男性が83%を占めた
- * 仕事縁や学閥などではなく、主にネットで知り合っている
- * 参加のきっかけ(理由)は様々
- * 宇宙機とニコニコ技術部という若干異なる分野に横断的な関心を持つ
- * 視野拡大や社会的インパクト・社会的意義に関するニーズを持つ
- * 精神的な安らぎを求める共同体ではない？
- * ソーシャルメディア上での活動だが、オフラインの活動も非常に重視されている

今後の課題

- * 共同体が持つ関心やニーズが満たされ、実践の変革に繋がるようにしたい
- * 研究を質的にも量的にも精緻化していきたい
 - * ニーズが具体的にどのような学習に繋がっていくのか
 - * アマチュア無線家による衛星プロジェクトや大学衛星プロジェクトとの比較

文献(1)

Wenger, E., White, N., Smith, J. D. & Rowe, K. (2005) Technology for communities.
http://technologyforcommunities.com/CEFRIO_Book_Chapter_v_5.2.pdf

Wenger, E., McDermott, R. & Snyder, W. M. (2002) Cultivating communities of practice. Boston: Harvard Business School Press 野村恭彦(監修)櫻井裕子(訳)(2002)コミュニティ・オブ・プラクティス——ナレッジ社会の新たな知識形態の実践——. 翔泳社

ussy (2010)【第5回MMD杯本選】ちょっと宇宙行ってくる！SOMESAT PV. ニコニコ動画

香川秀太(2008)「複数の文脈を横断する学習」への活動理論的アプローチ--学習転移論から文脈横断論への変移と差異. 心理学評論51(4):463-484

小宮泉(2005)第3回東工大 Inter-COE21シンポジウムアンケート結果分析. 東工大クロニクル404

文献(2)

SOMESAT(2009) SOMESATロゴ. ニコニコ技術部WikiのSOMESATページ

東郷寛(2008)活動理論による市民対話の活動システム分析:市民対話を媒介する「道具」の変化を例として. 日本経営診断学会論集 8(0):239-245

中原淳(2010)職場学習論——仕事の学びを科学する. 東京大学出版会

濱崎雅弘・武田英明・西村拓一(2010)動画共有サイトにおける大規模な協調的創造活動の創発のネットワーク分析:ニコニコ動画における初音ミク動画コミュニティを対象として. 人工知能学会論文誌 25(1):157-167

Flick, U.(2007) QUALITATIVE SOZIALFORSCHUNG. Rowohlt Verlag GmbH 小田博志・山本則子・春日常・宮地尚子(訳)(2011)質的研究入門——<人間の科学>のための方法論. 春秋社

山住勝広(2008)ネットワークからノットワーキングへ——活動理論の新しい世代. ノットワーキング 結び合う人間活動の創造へ. 新曜社